

## 外国人の人権尊重に関する実践事例

### 1. 基本情報

#### ○都道府県名及び市町村名

京都府宇治市

#### ○学校名

宇治市立南宇治中学校

#### ○学校のURL

<http://www.uji.ed.jp/minamiuji-jhs/>

### 2. 学校紹介

#### ○学級数

【通常の学級】1年生2学級、2年生3学級、3年生2学級  
【特別支援学級】3学級【合計】10学級

#### ○児童生徒数

【全児童生徒数】240人（平成28年10月1日現在）  
（内訳：1年生75人、2年生86人、3年生79人）

#### ○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

記載事項なし

#### ○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校教育目標】「未来をみつめ、強く正しく生きよう」  
【目指す生徒像】・真理を求め、真剣に学びあう生徒  
・生命を大切にし、豊かな情操、たくましい体力をもつ生徒  
・集団に誇りをもち、みんなと共にやりぬく行動力をもつ生徒  
（人権教育・基本目標）「教育活動全体に人権教育を適切に位置づけ、生徒の実態を的確に把握し、一人一人を大切にした教育の推進を図る」  
「全ての生徒に差別に対する科学的・実証的な見方、考え方と基本的人権に対する認識の基礎を培い、差別をしない、差別を許さない実践力を育てる。」

#### ○人権教育に係る取組一口メモ

本校には「中国残留日本人孤児」をルーツにもつ中国帰国生徒が約1割在籍。帰国生徒理解、障害理解、国際理解教育の視点から、人権教育を推進している。

#### ○人権教育にかかる取組の全体概要

- ◆「中国帰国生徒理解学習」「障害理解学習」「ソーシャルスキル学習」を学年ごとに系統立てて実施。
- ◆毎年11月に、学校公開「グローバルフェスタ in みなみうじ」を実施。外国の文化に触れたり体験したりすることを通じて国際的視野を広める。
  - ・1年生 中国文化体験 中国文化紹介、中国武術体験（発表会）
  - ・2年生 外国人ゲストティーチャーとの交流
  - ・3年生 NPO法人「アイセック・ジャパン」によるワークショップ（H28年度は、別の日にも1年生でニュージーランド理解学習を実施）

- ◆学年ごとに人権学習：3年生人権学習「K先生」講演及び伽耶琴演奏<sup>かやぐむ</sup>
- ◆全教員（管理職含む）が当初の年間指導計画に基づき道德の授業を実施
- ◆食育に力を入れ、年2回「お弁当の日」を実施
- ◆中国文化拳術部の活動による地域連携

### 3. 実践事例の内容

#### ○取組を始めたきっかけとねらい

本校校区には多くの「外国につながりを持つ市民」が生活し、校区内にある府営団地にも多くの中国帰国者（中国残留邦人やその家族）が入居している。近年では国際結婚や就労による新渡日の外国人も増加傾向にある。

本校は全校生徒240名の小規模校であるが、要保護・準要保護家庭、一人親家庭の全体に占める割合が高い。また、帰国・外国人生徒が約1割在籍し、日本社会での生活習慣の違いや理解不足から、学校生活に順応できない等の課題もある。経済的・家庭的な基盤が弱く、教育に対して関心が低い家庭もみられ、基本的な生活習慣、学習習慣が定着しないことが、生徒の意欲の喪失につながり、時には校内外での問題行動を起こすこともあった。現在は、部活動の活性化や地域と一体となった取組等の影響もあり、少しずつ落ち着きを見せてきている。

このような本校の状況や特質を、外国人に対する偏見や差別意識を解消し、外国人の持つ文化や多様性を受け入れ、国際的視野に立つ生徒を育成するといったプラス要素として捉え、中国帰国生徒理解学習や障害理解学習を通じた「人権教育」をはじめとして、「国際理解教育」、「道德教育」、「食育」に力を入れ、校区2小学校と一体となった「小中一貫教育」、「地域連携の取組」、本校独自の「総合的な学習の時間」を進める中で、子供たちが人権意識を高め、自己肯定感・自己有用感を育む教育をねらいとし、「学校が楽しい、そして卒業したことを誇れる中学校」になるよう地道な取組を推進している。

ここでは、本校ならではの取組の一部を紹介する。

#### ○取組の内容

##### ◆中国帰国生徒理解学習

- ・目的（1）日本語教室の存在意義を知り、そこで学ぶ帰国外国人生徒への理解を深めるとともに、多文化共生社会において必要な基礎的資質を養う。
- （2）映画鑑賞を通して中国帰国生徒につながる歴史的背景を知り、戦争の悲惨さと平和の尊さについて考えさせる。

1年生：（学年授業）「日本語教室理解」

（内容）日本語教室の存在意義と、そこで学ぶ仲間の思いを知る。

2年生：（クラス授業）「歴史的背景理解」

（内容）中国帰国生徒の背景にある歴史を知るとともに、言葉の壁を乗り越え、懸命に努力する仲間の姿から学ぶ姿勢を培う。

3年生：(クラス授業)「多文化共生」

(内容) 本校「中国帰国生徒」卒業生の体験談を通して歴史問題に正しく向き合い、進路実現に向けて「新たな一歩」を踏み出すことの大切さを学ぶ。

[全校学習] 映画に関する資料による事前学習

映画鑑賞：「お星さまのルール」→事後の感想を書く。

◆「グローバルフェスタinみなみうじ」

- ・毎年、学校公開「グローバルフェスタinみなみうじ」を開催し、学年ごとに趣向を変えて、ゲストティーチャーによる国際理解学習を実施し、幅広く地域・保護者へも本校の取組を公開している。

1年生：『体験しよう』

本校「中国文化拳術部」コーチ及び卒業生が講師となり全員が中国文化体験を行う。中国文化の紹介で説明を聞いた後、中国武術の基本となる「カンフー体操」の練習を行い、最後にグループごとに発表する。

2年生：『交流しよう』

世界各国(14か国)の外国人ゲストティーチャーを招き、全体会で伝統楽器の演奏や吹奏楽部による他国の国歌演奏、サリー(インドの衣装)の着付け体験などの文化体験をした後、各教室へ移動して、グループごとに3か国のゲストティーチャーと様々な国のお話を聞いて交流する。



1年生 中国武術の体験



2年生 サリーの着付け体験

平成28年11月12日(土)

3年生：『理解しよう』

NPO法人「アイセック・ジャパン」京都大学委員会による報告会とワークショップ

報告会：『日本とタンザニアでつくったアルバム』

ワークショップ：『教育の重要性と国際協力の役割を学ぶ』

◆1年生人権学習【12月9日：各学級で実施予定】

『ちがいのちがい』

- ・互いの個性の違いを認め合い尊重していこうとする態度を養うとともに、「あってはいけない違い」を見逃ごさず、決めつけ・排斥などによる差別・偏見を許さない人権感覚の素地を培う。

◆ 2年生人権学習【12月8日：各学級で実施予定】

『多文化共生社会を生きる』

- ・世界の食文化には、世界的に受け入れられる食文化もあれば、特定の国や地域でしか受け入れられないものもある。食文化を例に、多文化共生社会と呼ばれる現代において、偏見をなくしてお互いが気持ちよく生活する態度を養う。

◆ 3年生人権学習【12月13日：特設授業予定】

- ・ヘイトスピーチが社会問題となり、在日外国人差別の根深さが改めて感じられる今日、毎年グローバルフェスタにゲストティーチャーの一人として招いているK先生(学校教員：在日コリアン3世)に当事者の立場からお話を伺い、身近な問題として差別事象を捉え直し、守られるべき人権について体感する機会とする。

美しいチマチョゴリ姿で講演するK先生  
平成27年12月8日(火)



< 5.6校時：K先生の講演と伽耶琴演奏（柔剣道場） >

○生徒からの質問・感想 等 → 教室へ戻り、各自、感想・礼状を書く。

本校においては、中国帰国者や中国帰国生徒に対する理解は、25年以上の歴史があり、一定進んでいる。在日コリアンや他国に対しての知識理解は、「グローバルフェスタ」や人権学習等で行ってきたが、隣接する校区にも在日外国人の住んでいる地域があり、そのルーツをもつ生徒が本校にも在籍しているので、今後一層充実する必要がある。

◆食育の取組 ～自分でお弁当を作る「お弁当の日」～

- ・「食生活を自己管理する力を身につける」「食の大切さを知り感謝していただく」ことをねらいにして実施している。(本年度で7年目)

<事前学習>

1年生：①「お弁当の作り方」の授業、「豚のしょうが焼き」の調理実習

②「旬の食材」

2年生：①「五香スパイスを使った茶卵料理」

②「ピーマンの調理の仕方」(講師：J A宮崎経済連)

3年生：①「韓国料理の学習とキムパ(韓国風巻き寿司)づくり」(講師：韓国料理店)

②「お茶～おかず作り～」(講師：茶業センター)

<お弁当の日> 7月、12月の年間2回実施。

全校生徒の弁当を写真にして  
掲示し刺激しあう。



自分で作った弁当<班ごとの写真>

#### ◆ 中国文化拳術部（中文拳）の活動による地域連携

- ・多くの中国帰国生徒が在籍する本校の特色を生かして、帰国生徒と一般生徒が共に切磋琢磨しながら日々練習に励んでいる。
- ・毎年、地域のお祭りにアトラクションとして参加している。また依頼を受けて近隣小学校や宇治市の大きな行事に積極的に参加し、演武を披露している。



※写真は、「宇治市日中友好協会40周年記念式典」で黄檗山萬福寺(月台)にて演武を行う「中文拳」 平成27年5月30日(土)

## 4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

(取組を実施する際に生じた課題)

- ・若い教員や、本校での経験年数の短い教員が増える中、取組の「ねらい」や目的等を学校全体で共有し、事後の検証を十分行い、共通理解して取組の改善策を打ち立てていくことが困難になっている。
- ・小規模な中学校となり教員数が減少する中で、少ない学年教師集団で取り組まざるを得ず、取組担当に企画・立案等の負担がかかってしまう傾向がある。
- ・学校の取組や「子どもたちのがんばり」を地域・保護者へ発信し、学校への理解や支援をしていただくための一層の体制充実を図る必要がある。

(課題に対する解決方法)

- ・学校全体での研修会や会議だけではなく、学年会で論議を活発に行う中で、様々な取組の総括を確実にやり、組織的に取り組める体制づくりを進める。
- ・取組の内容や、その工夫を若手教員に任せ、斬新なアイデアを積極的に取り入れていく。
- ・「学校だより」を地域・保護者へ迅速に配布したり、ホームページや地域での会議等でタイムリーな情報を発信したりすることに重点を置く。
- ・南宇治中学校ブロックは、本校と2つの小学校が隣接しており、その地の利を生かし、9年間を見通した小中一貫教育を進める中で、小中連携、小小連携の取組を一層充実させる。

## 5. 実践事例の実績、実施による効果

○人権学習や国際理解学習を通して、外国につながりを持つ生徒自らのアイデンティティを育み、「日本語教室の生徒」であることや「中国文化拳術部」に所属することに自信を持って語り、活動することができるようになった。周りの生徒たちもまた、そんな姿や歴史的意味を学習したり、文化体験したりすることで、人権意識を高め自己実現に向けて生きる力を培うことができるようになっている。

○外国にルーツのある生徒に対しての「不適切な表現」や「ことばの行き違い」によるトラブルや暴力事象等の問題行動が大きく減少し、生徒たちが生き生きとした学校生活を送れるようになってきた。

○他校にはない、学年ごとに実施する「中国帰国生徒理解学習」及び3年生人権学習(特設授業)での生徒の感想を以下に抜粋して掲載。

#### <中国帰国生徒理解学習>

- ・1年生：「日本語教室の生徒作文」

『もし私のおじいちゃん、おばあちゃんが中国残留孤児だったらって考えると、同じ血がかよっている家族なので、すごく胸が痛みました。』

『小学校の時は中国人って言うのがいやだったけど、今日の学習をして「べつに中国人でいいやん！何も恥ずかしいことないし、逆に日本語と中国語できてかっこよくね？」って思えて、すごくいい経験になったと思いました。』

- ・2年生：「日中の歴史と、困難を乗り越えた先輩の生き方から学ぶ。」

『戦争がどれだけ辛いかが改めて分かったし、二度としてはいけないと感じた。クラスメイトの中にも残留孤児のルーツをもつ仲間がいて、そのひいおばあちゃんたちが、こんなに苦しい思いをしていたと思うと、とても悲しくなった。』

- ・3年生：「中国帰国生徒の先輩の体験談を聞いて考える。」

『今日の授業を聞いて、南宇治中は日本とは違う文化を体験できる珍しい場所だったのだと分かりました。そして南宇治中で感じている「あたりまえ」という感覚を大切にして、これからの社会に向けていろいろな人に伝えていければいいと思いました。また、帰国生徒でも考え方が全然違うので、勝手にイメージを持ってはいけないと思いました。これからは、人の気持ちをしっかりと考えて話そうと思いました。』

#### <3年生人権学習：K先生の講演を聞いて>

『ヘイトスピーチのことを聞いたら胸が苦しくなり、涙が出そうになりました。南宇治中は中国帰国生徒が多く、私の友達もその一人です。でも、その子たちを守る自信があるので、安心してください。』

『私も在日コリアン四世で、差別をされたり変な目で見られたりすることは1回もありません。それは、K先生たちが今日みたいな授業をしてくれたおかげだと思って感謝しています。アリラン、小さい頃に歌ったことがあったので懐かしかったです。在日コリアンなのは私の自慢です。高校生になったら、もっと自分のことを勉強しようと思います。』

『私は中国帰国四世です。私は今、友達にも先生にも恵まれて、とても幸せだと思います。私にとって知らなければいけないことを聞いた気がしてとても感謝しています。』

◆事後の感想を読むと、「中国帰国生徒理解学習」「3年生人権学習」における当事者の体験談や講演など、生々しい実体験に基づく説得力のある「語り」で心を揺さぶられ、現実のヘイトスピーチや差別事象を身近な問題として捉え「守られるべき人権」について多数の生徒たちが真剣に考えたと確信する。

## 6. 実践事例についての評価

本校では、全校生徒の約1割を「中国帰国生徒」が占めるため、毎年1学期に国際理解・人権学習の一環として「中国帰国生徒理解学習」を実施してきた。30年近くの長い歴史において、その積み重ねの中で、近年は中国帰国生徒が自身の出自を堂々と語り、周りの生徒もそのことを自然に受け入れ、差別や偏見の目で見ない土壌が育っている。

今後も、「中国帰国生徒理解学習」を基盤とした「人権教育」を土台に据え、「特別支援教育」や「道徳教育」、「食育」に力を注ぎ、安心、安全な学校であり続けられるように学校運営を充実させていきたいと考えている。

また、平成24年度以降宇治市をあげて取り組んでいる、南宇治中学校ブロック(2小1中)での「小中一貫教育」を更に充実させ、子供たちが生き生きとした学校生活を送り、「学校が楽しい、そして卒業したことを誇れる中学校」になるよう一歩一歩前進させていきたい。